

〔さとうきび〕

1. 作付の概要

2007/2008年さとうきび年期の鹿児島県の収穫面積は9,378 ha、前年比103.6%で323 haあまり増加した。作型では春植え20%、夏植え20%、株出し59%であり、夏植えがやや減少し、株出しの面積が増加した。品種の構成ではF177が減少し、NiF8、Ni17もわずかに減少、代わってNiTn18、Ni22、Ni23などの新品種の作付けが増加した。

沖縄県の収穫面積は12,659 ha、前年比99.9%で、前年より16 ha減少した。作型では春植え11.9%、夏植48.3%、株出し39.7%で、前年と比較すると夏植え、春植えの比率が減少し、株出しの比率が対前年度比105.2%と増加した。品種の構成ではF172、F177、NiF8、Ni9が減少した。Ni15は収穫面積の24.7%で最も多く作付けされている。Ni16、Ni17、NiTn19、宮古1号などの新品種の作付けも増加した。鹿児島県においては分蜜糖工場の製糖は種子島で始まり（2007年12月7日）、種子島と沖永良部島で最も遅く終了した（2008年4月28日）。沖縄県では分蜜糖工場の製糖は伊良部島（宮古製糖伊良部工場）で始まり（2007年12月13日）、伊良部島で最も遅く終了した（2008年4月25日）。

2. 作柄の概況

鹿児島県熊毛地域では気温は2月には比較的高く、3月から4月にかけて低温であった。7月中旬の台風4号と8月初旬の台風5号ではあまり大きな被害はなく、8月以降の高温と多日照により生育は順調であった。奄美地域では気温、日照とも概ね平年並に近く推移した。6月末から7月中旬にかけて軽い干ばつとなったが、台風4号の雨で解消、その後も降水が適度にあり生育は順調であった。台風4号と9月中旬の熱帯低気圧および台風11号の影響で奄美地域では一部で茎の倒伏などの被害が発生した。鹿児島県全体の10アール当たり平均収量は6,932 kgで前年比10.6%増加した。その結果、総生産量は650,067トンで前年実績を82,693トン、14.6%上回った。甘蔗糖度の県平均は14.5%で前年度とほぼ同じであった。分蜜糖の製糖歩留りも12.58%と前年度とほぼ同じであったが、生産量が多かったため、産糖量は前年より14.3%増加し81,698トンとなった。

沖縄県では生育期間を通して、気温は概ね平年並みか、やや高めで推移した。また、生育の中期から後期にかけては概ね平年並み以上の降水量があった。10月までに8個の台風が接近したが、八重山地域に大きな被害をもたらした台風12号（9月下旬）、15号（10月上旬）、久米島に接近した11号（9月中旬）以外は、各地域とも台風による被害は小さかった。沖縄県の収穫面積は前年度よりもわずかではあるが減少した。県全体の10アール当たり平均収量は6,705 kgで、前年の5,848 kgを14.7%上回った。さとうきびの総生産量は848,802トンで前年実績より14.5%の大幅な増加となった。地域別にみると前年に比べ、沖縄地域で12.1%、宮古地域で18.0%、八重山地域で13.2%の増収であった。甘蔗糖度の県平均は14.4%で前年度を1.4%下回り、結果として歩留りもわずかに低下したが、生産量が多かったために産糖量は前年度より12.3%増加した。

（九州沖縄農業研究センター バイオマス・資源作物開発チーム（さとうきび育種ユニット） 松岡誠）

2007/2008年期の沖縄、鹿児島両県のさとうきび生産実績

県別	年次	農家戸数 (戸)	収穫面積 (ha)	10a 当たり 収量 (kg)	収穫量 (ton)	甘蔗糖度 (%)	産糖量* (ton)	歩留り** (%)
鹿児島	07/08	9,550	9,378	6,932	650,067	14.5	81,698	12.58
	対前年比	94.9	103.6	110.6	114.6	100.0	114.3	99.8
沖縄	07/08	17,475	12,659	6,705	848,802	14.4	104,229	12.19
	対前年比	98.5	99.9	114.7	114.5	98.6	112.3	98.7
両県合計	07/08	27,025	22,037	6,802	1,498,869	-	185,927	-
	対前年比	97.2	101.4	113.0	114.5	-	113.2	-

* : 含蜜糖を含む生産量

** : 分蜜糖のみの歩留り

平成 19/20 年 期 さとうきび及び甘しや糖生産実績（鹿児島県、沖縄県）より抜粋，編集。